

江戸より番目の宿
東海道五十三次

口加川しほがわ

江戸を出る旅人との別れを惜しんで見送る人と、江戸にくる旅人を出迎える入で、かつての品川宿はいもにざわつていた。

JR品川駅から第一京浜国道沿いに歩き、ハツム橋をわたると、右側にハツムコミネニテテ路。このあたりが品川宿の入り口にあたること、あつた三次の宿場名を刻んだ石柱がたてられている。

旧東海道の商店街の一つとして、現在も賑わっている。商店街のシンボルには、広重の絵が描かれて、若春には人気がある。



広重の絵では街道のすぐ隣まで迫っていたこの宿も、幕末に外国船の来航に備えて品川砲台(台場)を築く際に削り取られ、明治に東海道線が敷設される際にまた削り取られた。こうして小さな丘になった後は、明治から昭和にかけての

政財界人の高級住宅地となり、三麦の岩崎一族、美術館などの邸宅が立ち並んだ。

東海道品川宿 お休み処
世感おこしに取り組んで、旧東海道品川宿、品川まちづくり協議会とが北品川と南品川の旧宿場筋に計八カ所を、設置してある。

品川本陣「聖跡公園」の入口がある。ここは江戸時代品川三宿、北南、新の宿場の中央にあたり、参勤交代の大名などが泊まる本陣があった所である。

